

第3学年英語科学習指導案

1 題材 SUNSHINE ENGLISH COURSE3 PROGRAM10 Another Giant Leap

2 題材について

(1) 題材観

この題材は、由紀が20世紀後半における宇宙科学の進歩について調べ、まとめたものである。自国の利益のための研究開発から、近年では国際協力の上での宇宙開発へと移行していることが述べられている。本文で人類史上初の宇宙旅行や月面着陸、宇宙ステーションなどの宇宙開発を知ることで、宇宙の可能性を感じることができる。また、将来への夢をつなぎ、国境を越えて協力することの大切さを生徒自身が考える良い機会となる。

言語材料については、目的格の関係代名詞で表現された名詞節が出てくる。この表現は日本語にはない形で、生徒にとっては難しいと考えられる。しかし、目的格の関係代名詞を含む名詞節の表しているものを正しく読んだり、それを使って意見を示したりするなど、読解や表現の向上が期待できる。

(2) 系統観

一年生

二年生

三年生

be 動詞(現在形)
一般動詞
助動詞・疑問詞
現在進行形(be 動詞+動詞 ing 形)

be 動詞(過去形)
一般動詞(過去形)
不定詞・比較
過去進行形(be 動詞+動詞 ing 形)

PROGRAM1,2
現在完了形

PROGRAM8
後置修飾

PROGRAM9 PROGRAM11
主格の関係代名詞 目的格の関係代名詞

(3) 生徒観

本学級は明るい雰囲気があり、英語の授業でも活発である。物事に対する興味が深く、調査・研究などにも意欲的だ。協力して課題解決し、英語を用いてのコミュニケーション活動等にも真面目に取り組める生徒が多いが、グループ活動やペア活動で積極的に参加できない生徒もいる。また、読むことに関してはあまり抵抗がないが、文法理解に苦手意識をもっている生徒が多い。

(4) 指導観

ここで学ぶ目的格の関係代名詞の表現は、PROGRAM 9 で学んだ主格の関係代名詞に続いて基礎的・基本的事項の一つとして是非定着させたい内容である。本文内容を整理しながら毎時間繰り返し関係代名詞の用法を学ぶことによって、基礎の徹底を図りたい。また、口頭練習の活動も多く取り入れることによって、自然に基本の文が言えるようにしたい。本文は、20世紀後半に本格化された宇宙科学の進歩についてである。よって、私たちにとって最も身近な天体である月についての、関係代名詞が使われた文章による情報を読み取ることによって宇宙に対する関心を深めていきたい。

コミュニケーション活動では、自分の考えを述べ、また相手の考えに対する意見を言う練習を行う。意見を述べるための基本の形を用いてALTとあるいはペアになって練習することで形の定着を図りたい。グループ活動やペア活動で自ら進んで取り組むことが難しい生徒に対しても配慮し、生徒同士が協力して活動が行えるように働きかけたい。

(5) 研究主題との関連

英語科での研究主題のテーマにTeam-teachingの導入によるmotivationの惹起、そしてそれによる英語運用能力の向上というTeam-teachingと四技能との有機的結合の追及というものがある。本単元では、Readingを重点的においた構成であり、こうしたReadingの技能とTeam-teachingの特性をいかに適合させるかが本時の中心課題となる。そこで英語科では英文を読み進める上で、読むためのmotivationをいかに高めるかを中心に授業展開することにした。そのポイントはJTEがReading指導する場合とは異なるALTによる指導を通じて、英文の構造の理解の仕方や発想の違いというものを理解させ、その実際の読解の体験を通じてmotivationだけではなくReading技能を高める授業展開を試みた。

3 題材の目標

- (1) 時間の流れにそって情報を整理しながら、内容を正しく理解することができる。

(2) 目的格の関係代名詞の形・意味・用法を正しく理解し、使うことができる。

(3) 本文の内容をふまえて、国際協力の重要性について考え、国際社会に生きる日本人として互いに協力しようとする意欲や宇宙への関心を高める。

4 指導計画（6時間取り扱い）

次	学習内容	時間	評価項目
1	PROGRAM 10 – INTRODUCTION 目的格の関係代名詞の用法と本文の内容理解	1	目的格の関係代名詞の理解。 本文内容の理解。
2	PROGRAM 10 – 1・2・3 本文の内容理解と目的格の関係代名詞の用法	3	目的格の関係代名詞の理解。 本文理解と読み・書きとり。
3	PROGRAM 10 – After Reading 班活動と本文の流れの把握	1 (本時)	情報の読みとり・説明。 本文内容の把握。
4	PROGRAM 10 – Check and Use・考えの表現 目的格の関係代名詞の徹底と意見の表現方法	1	目的格の関係代名詞の使用。 意見の表現・友達との意見交換。

5. 本時の指導（1／6）

(1) 学習目標

評価項目参照

(2) 本時の指導にあたって

・英語がコミュニケーションのツールであることを日常的に実感させるため、Team-Teaching の自然な対話と実演により、「疑問詞＋不定詞」や関係代名詞の表現を Reviewing する。

・本文の内容や新出文法事項の定着を自己評価できるように、学習のポイントを明確にした「内容プリント」と「文法プリント」を作成する。

・どの生徒も学習活動に参加できるように、課題の提示の仕方や取り组ませ方を工夫する。

【英語の得意な生徒】

- ・「文法プリント」の課題（和訳3問，英訳2問）に，挙手して口頭発表する。
- ・ノートに正しく答えを書く。

【英語の苦手な生徒】

- ・友だちが口頭発表した「文法プリント」の課題の答えを聴き取り、メモをとっておく。
- ・メモをもとにノートに答えをまとめる。挙手して黒板に答えを書く。

□ 基礎・基本を確実な定着を図る「文法プリント」の活用について

- (1) 身に付けさせたい基礎・基本を見極め、5つの基本文に絞込み、【文法プリント】を作成する。5つの基本文をマスターすれば、英語の力が着実に身に付くことをしっかり伝えておく。
- (2) 教師が言う5つの基本文を聴き、その意味や英訳を考え、手を挙げて発表する。
- (3) 友だちが発表した正しい答えをみんなで確認し、5つの基本文の意味や英訳を、全員で繰り返す。
- (4) 英語がどちらかというと苦手だと考える生徒は、この段階でノートにメモをとってもいいことにする。
- (5) 全員で確認した答えを思い出しながら、5つの基本文の意味や英訳をノートに書く。
- (6) 5つの基本文の意味や英訳を黒板に出て書き、みんなで確認する。
- (7) 5つの基本文の意味や英訳を、家庭でも繰り返し声に出して言ったりするように指示する。
- (8) 生徒の学習意欲を喚起し確実な定着を図るために、定期考査の2週間前には【定期考査対策プリント】を配布したが今回は廃止した。

(3) 準備物

単語カード

内容プリント

文法プリント

(4) 本時の評価

省略別紙参照

(5) 学習過程

同 上